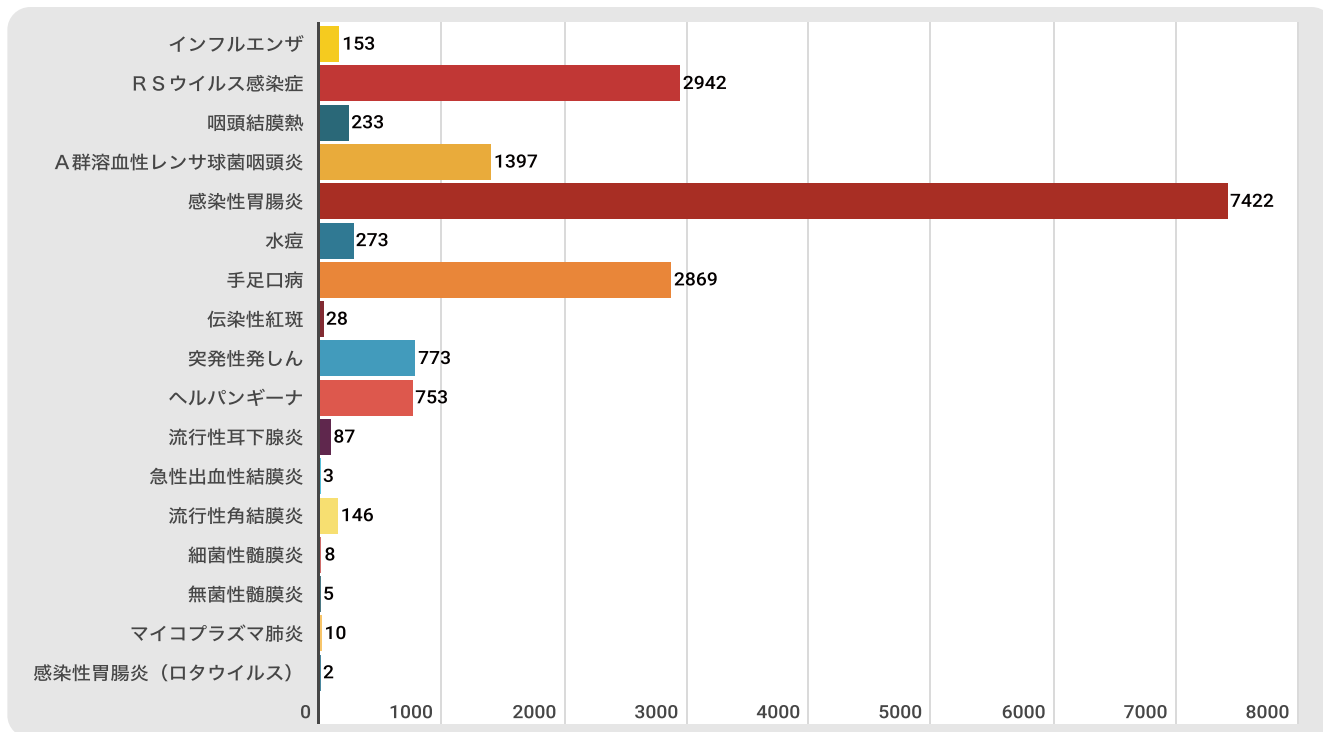


国立感染症研究所が発表する感染症発生動向調査週報「定点把握疾患(週報告)、累積報告数、定点当たり累積報告数、都道府県別」に基づいて、毎週の感染症報告動向をお届けする。

増加続くコロナ、第八波に備えを



(国立感染症研究所のデータを基に編集部作成)

10月24～30日は定点把握疾患のうち感染性胃腸炎の報告数が最も多く、7,422例であった。続いてRSウイルス感染症が2,942例、手足口病が2,869例の順であった。感染性胃腸炎は、前週比443例増と前週(800例増)から増加幅が縮小したものの2週連続で増加し、第31週(8月1～7日)以来の7,000例台となったことから、引き続き注意が必要である。RSウイルス感染症は、前週比155例減と前週(44例増)から減少に転じ、第26週(6月27～7月3日)以来17週ぶりに3,000例を下回った。ただし、昨年(2022年)は同週(949例)以降、冬季にかけて1,000例前後の低水準で推移したのに対し、今年は約3倍と高水準にある。手足口病は減少が続き、第29週(7月18～24日)以来の報告数第3位となった。新型コロナウイルス感染症は3万1,622例/日で前週(2万2,420例/日)から約9,000例増、1週間平均も5万8,486例で前週(4万1,082例)から約1万7,000例増と、いずれも大きく増加した。4週連続で増加しており、医療提供体制の確保に向け、第八波の到来に備えが必要である。

※2021年同週の上位3位は、感染性胃腸炎8,215例、手足口病4,790例、ヘルパンギーナ1,920例

●**感染性胃腸炎**：前週(6,979例)から443例増加した。報告数が多かったのは、3週連続で東京都807例、埼玉県570例、神奈川県517例の順であった。定点当たりの報告数(2.37)は大分県が6.06、福井県が4.22、愛媛県が4.14、宮崎県が4.08、島根県が3.96、岡山県が3.93、埼玉県が3.58、福岡県が3.49、熊本県が3.34、兵庫県が3.29、東京都が3.12、広島県が3.06、三重県が3.02、佐賀県が3.00と続いた。

●**RSウイルス感染症**：前週(3,097例)から155例減少した。報告数が多かったのは、東京都227例、北海道182例、福岡県148例の順であった。定点当たりの報告数(0.94)は、山形県が4.72、徳島県が3.96、高知県が3.44、山口県が2.27、山梨県が2.08、沖縄県が2.06、鳥取県が1.84、栃木県が1.83、福島県が1.60と続いた。

●**手足口病**：前週(3,649例)から780例減少した。報告数が多かったのは、2週連続で東京都280例、大阪府251例、神奈川県191例の順であった。定点当たりの報告数(0.92)は、愛媛県が2.89、大分県が1.75、熊本県が1.72、石川県が1.62、京都府が1.51、福岡県が1.36、青森県および富山県が1.31、大阪府が1.28、兵庫県および島根県が1.26と続いた。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)情報

厚生労働省が公表している「国内発生状況」によると、11月7日の新規陽性者数は3万1,622例であった。